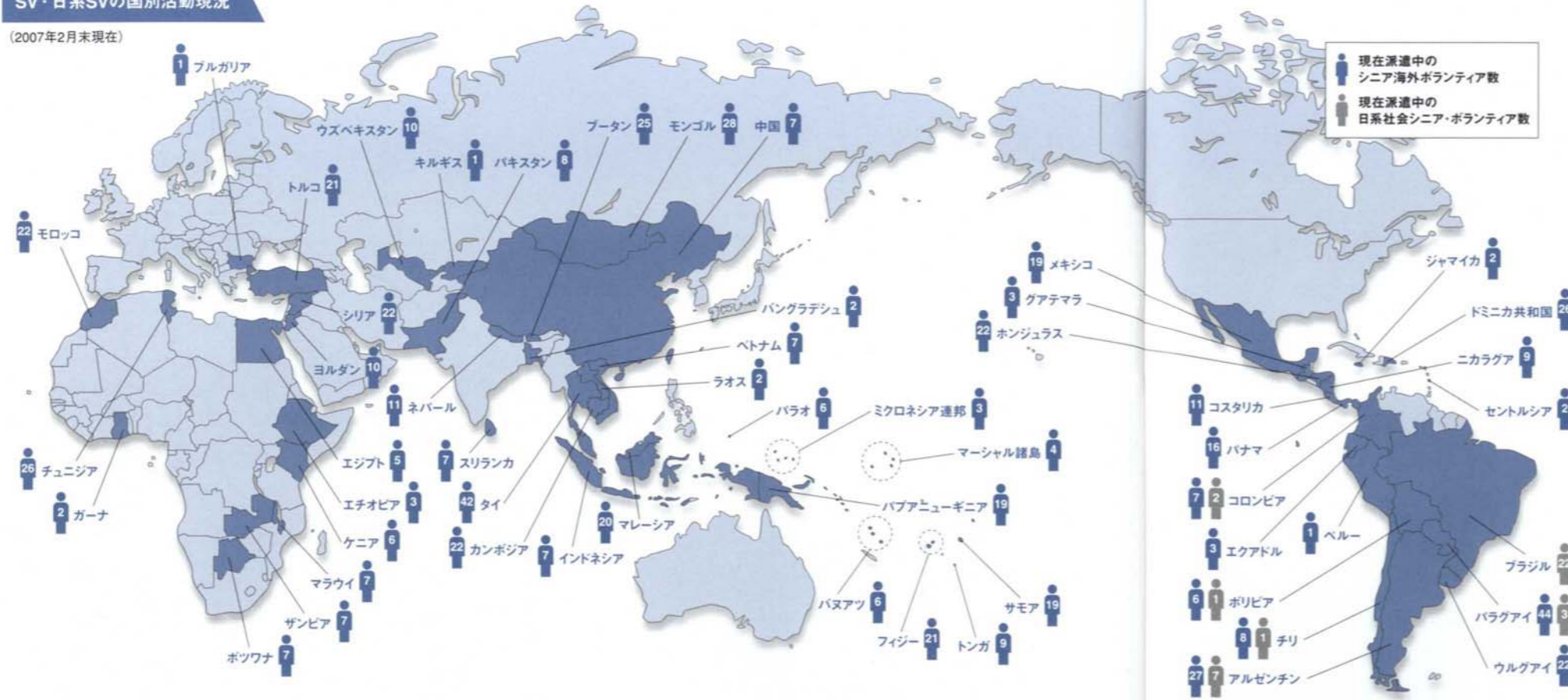
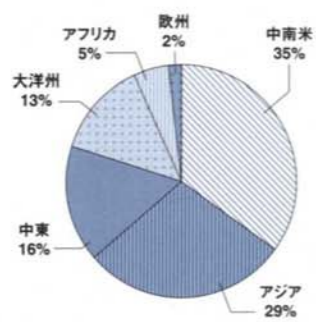


SV・日系SVの国別活動現況

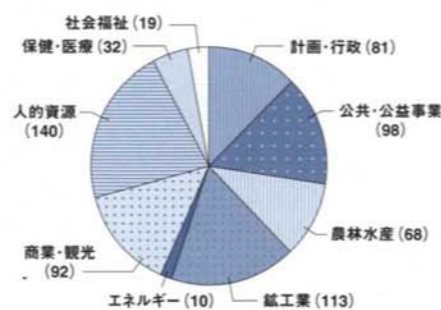
(2007年2月末現在)



SVの地域別活動状況

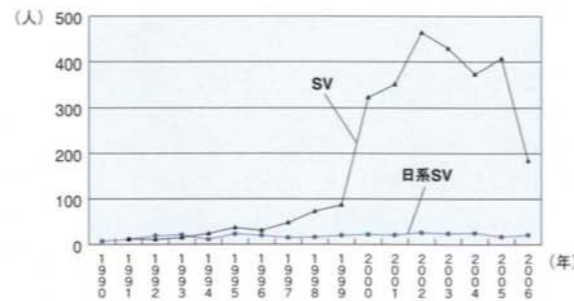


SVの分野別活動状況(人)



SV・日系SVの年度別派遣実績

(1990~2006年度、ただし06年度は07年2月末現在の数字)



派遣中の国数・人数、累計人数

	シニア海外ボランティア	日系社会シニア・ボランティア	合計
派遣中の国	53カ国	6カ国	54カ国
派遣中の人数	653人 (99)	36人 (24)	689人 (123)
累計人数	2,871人 (432)	319人 (135)	3,190人 (567)

()内は女性の数

JICA's Approach

シニア世代の優れた技術・豊かな経験を途上国に

新たな活躍の舞台として、海外ボランティアに対するシニア世代の関心が高まっている。国民参加型の国際協力を推進するJICAは、途上国の発展に貢献するシニア世代の技術や経験を伝えるとともに、シニア世代の再チャレンジを応援するため、シニア海外ボランティアの派遣事業に力を入れている。

急増するシニア海外ボランティア

開発途上国の人々のために、自分が持っている技術や長年の経験を生かしたい。そんな強い意欲と情熱を持った40歳から69歳までのシニア世代を途上国に派遣するJICA事業が「シニア海外ボランティア(SV)」だ。日本の政府開発援助(ODA)の一環で、1990年に「シニア協力専門家」として始まり、96年に「シニア海外ボランティア」と改称された。

ODAに対する国民の理解増進を目的に、JICAは2003年以降、「国民参加」を重点課題の一つに掲げ、ボランティア事業を中心とした国民参加型の国際協力を積極的に推進している。若い世代はもろいこと、社会の高齢化に伴い、人生をより有意義に過ごしたいと海外でのボランティア活動に関心を寄せるシニア世代も増えていることから、応募形態などの多様化や支援体制の強化により、参加促進に努めている。

年々、派遣者数は伸びており、07年2月末時点での派遣実績は、58カ国、累計3190人になる。活動期

途上国発展の即戦力として

募集期間中は全国各地で「体験談&説明会」を開催し、帰国したSV・日系SVによる体験談の発表のほか、個別の相談にも応じている。07年度春募集(45ページ参照)からは、応募を考えている人が、説明会や応募に関する情報をタイムリーに受け取ることができるようプレエントリー制を導入。プレエントリー後に正式

間は原則1年または2年間だが、1カ月から10カ月間程度の「短期ボランティア」も年6回募集している。派遣先は、中南米、アジア、中東、大洋州、アフリカ、欧州など世界50カ国以上で、現在は約700人が活動中だ。

活動分野は、計画・行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉の9分野、約450職種と多岐にわたる。春と秋の年2回に、各500人程度を募集している。

また中南米の日系社会で、移住者や日系人の人々にも生活・協働しながら地域社会の発展を目指す「日系社会シニア・ボランティア(日系SV)」もある。

募集は秋のみの年1回。活動分野は、教育文化、保健衛生・福祉が中心で、職種では日本語教育に携わる人が大半を占める。

SV・日系SVとも、派遣は途上国の要請に基づくもので、JICAは各国に対する援助の重点分野に沿って戦略的に派遣している。

また、官公庁や企業などの所属先に身分を残したまま参加できる「現職参加」を推進しているほか、現職参加する場合、所属先に対してJICAが人件費を補てんする「所属先人件費補てん制度」も設けており、志望者が参加しやすい環境づくりにも力を入れている。

な応募(書類応募)をすると、選考のプロセスなどもウェブサイトで簡単にチェックできる。

選考は書類審査と面接審査により行われ、また、途上国は生活環境や医療衛生事情などが日本とは大きく異なることから健康診断の結果も重視される。合格者は派遣国で使用される言語の学習を中心に、国際協力の現状、JICA事業、赴任国の事情、安全対策などを学ぶ派遣前訓練を受ける。SVに限り、07年度春募集の合格者より訓練期間が従来の31日間から65日間に延びるほか、JICA二本松またはJICA駒ヶ根で青年海外協力隊と合同で訓練を受けることになる。また選考の結果、合格水準に達しているものの、希望の職種の競争率が高くて合格とならなかったり、要請の中に自分に合うものがなかった場合は、有資格者として登録できる制度もある。

SV・日系SVは家族が同伴することも可能で、実際に約3割のSV・日系SVが夫婦または家族で赴任している。参加者本人には現地生活費や住居費などが支給され、同伴者も家族手当が受けられる。

現地では公的機関などに配属され、単独で活動する場合もあれば、JICAの技術協力プロジェクトと連携したり、複数のSVと同一の配属先にグループとして派遣されることもある。

詳細が記された募集要項は、JICA本部をはじめ、各地の国内機関や体験談&説明会などで配布しているほか、ウェブサイトで(<http://www.jicag.jp/activities/sv/>)でも公開している。

日本の経済成長を支え、優れた技術や豊かな経験を有するシニア世代は、貧困削減などの課題に取り組む途上国の貴重な戦力となり得る。SV・日系SV参加者の平均年齢は約58歳。人生のセカンドステージをより意義のあるものにし、願うシニア世代に、JICAは広く参加を呼び掛けている。

※無給休職または無職の状態に参加する65歳以下(日本出発日現在)の人には、国内積立金が支給される。